

湘南ペガサス40周年に寄せて

初代ペガサス代表

OB 会元会長 柳川 明信

40周年の発展を続けてきたことは、多くの仲間の参加と努力の積み重ねだと思います。

成長の要因を考えてみました。

まず、「湘南」の名を冠していること。誇り高き旧制湘南中学蹴球部の流れを継ぎ、現役支援の中心的存在であることを示し、岩淵二郎先輩の命名と支援の依頼にあります。

次に発足から長い間チームの組織が固まるまで運営の主務をつとめてくれた、大内君（31回）・井上君（36回）、試合・大会参加など運行面で中心になった中原君（30回）・山本修君（27回）。この競技面とチーム運営面がよく助け合って続けてこれたことです。

また湘南OB以外の同好の人々の参加を求め、メンバーの増加・競技力の向上に努めてこれだけの大きなクラブになったこと。

発展の過程で40代が50代になり、60代・70代と年を重ねていく都度、年代別のチームを編成、クラブの層を厚くし、新たに40代になる湘南OBの参加も求め、年代が途絶えることなくOB会との連携も引き継がれてきました。

次に年代別チームを独立させ、チーム運営に独自性を持たせ、本部がこれらを統括すると云う組織改革が上手く軌道にのり、各年代のメンバーが夫々プレーを楽しみ、全国レベルの大会にも積極的に参加するようになりました。

現役支援がクラブの基本にあるようにOB会とよく連携し、OB会役員もペガサス会員が多く占め、まさに一体化して支援にあたる事が出来てきました。

私達が40年前ペガサス設立の時から岩淵さんから託された（強固なOBチームが現役を支えつづける）がほぼ確立できたと考え、私の役割はほぼすんだと思い、ペガサスを勇退しました。

湘南サッカー100年、OB会関係の方々と共にペガサス全員を祝おうではありませんか。

（ペガサス創立メンバー OB 会元会長）